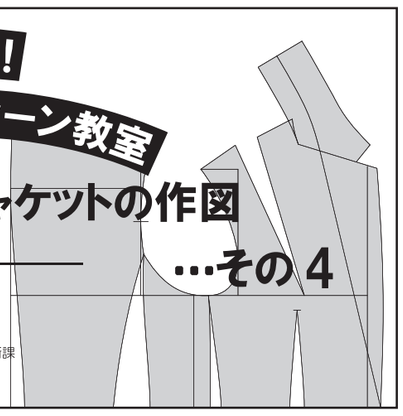
No.006

実践！ レディス・パターン教室

テーラード・ジャケットの作図 …その４

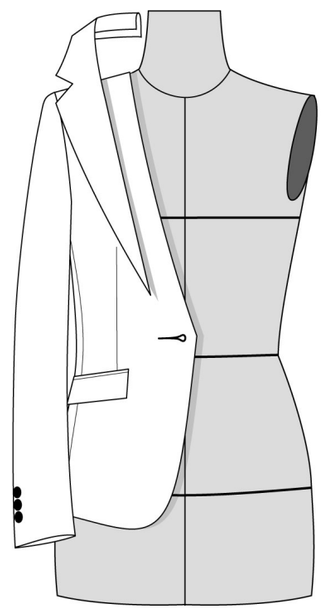
菊地　正哲
（きくち・まさのり）
イトキン株式会社商品管理部技術課
日本モデリスト協会運営委員



第2章　襟とラペルの作図

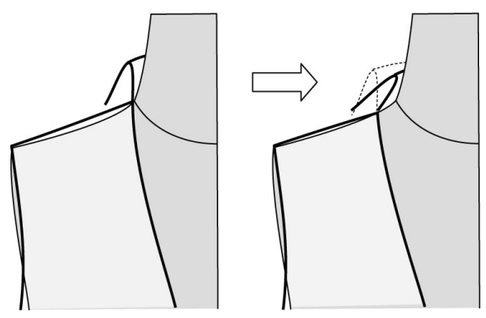
1．襟ぐり線の決定

テーラード・カラーにおける襟ぐり線の考え方について説明する。テーラード・カラーは襟の部分とラペルの部分に分けられるが、全部を襟として捉えると襟ぐり線はどのような線になるか見えてくる筈である。更に首を圧迫することなく首に沿った襟を付けるためにはどのような襟ぐり線が適切かを考える。



【図１】

【図１】襟とラペルを一枚の襟として別付けにした図。このときの本体の襟ぐりがテーラード・カラーの襟ぐり線となる。



【図２】

【図２】首に沿った襟を付けるための襟ぐり線を表した図。天幅が狭い襟ぐりは首の〝登り〟に掛かり、肩に空隙ができて首に負荷が掛かる。天幅を広くすることにより肩の空隙と首への負荷を減らし、圧迫感のない襟になる。天幅を広げることで襟が首から離れるので、襟腰を寝かして首に沿わせる。

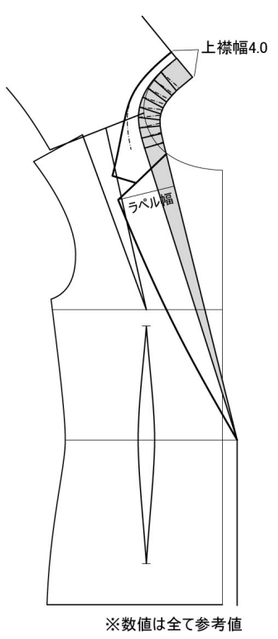
――襟腰を寝かした襟は必然的に襟足の高さが低くなり、フラットカラーに近い形状になる。

2．襟とラペルのデザインの決定

【図３】▼３面ジャケット原型の前身頃と後ろ身頃を肩で突き合わせる。▼襟ぐり線NL（ネックライン）上の任意に下がったところに点Fをとる。▼BNL（バックネックポイント）から点F間をカーブで結び、新しい襟ぐり線NLとする。

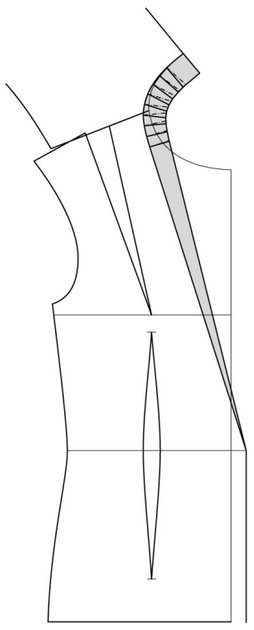
――点Fの位置はゴージラインの高さに比例する。▼点Gから襟腰幅の直角線を引き、点Hとする。▼点Hから３㌢の直角線を引き、点Hとする。▼点Hから点Dまでの間を直線で結び、H～Dまでを返り線RL（リバースライン）とする。

――グレーで塗りつぶしたくさび形の図形がテーラード・カラーの襟腰になる。重要なのは「襟ぐり線」と「返り線」を形に展開線を入れ、返り線側をたたんで襟ぐりのカーブに沿わす。

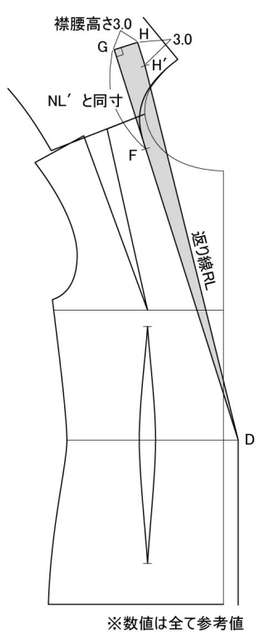


【図６】

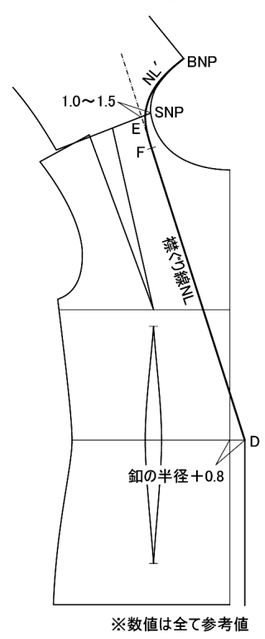
【図６】上襟幅とラペル幅を決め、返り線RLのデザイン線を描く。



【図５】



【図４】



【図３】

はっきり区別すること。

【図５】くさび形の図形に展開線を入れ、返り線側をたたんで襟ぐりのカーブに沿わす。

【図６】上襟幅とラペル幅を決め、返り線RLのデザイン線を描く。

3．襟の作図①（抜き取り展開）

襟とラペルのデザインが決まったら、襟の作図方法を２通り紹介する。まずは抜き取り展開という方法の説明に入る。これは【図６】の襟の部分だけを抜き取って、パターン展開によって作図する方法である。

（実践！レディス・パターン教室02の「8．パターン展開によるフードの作図」と同じ方法）

【図７】襟のデザイン線を抜き取る。

【図８】更に襟腰部分を抜き取り反転する。

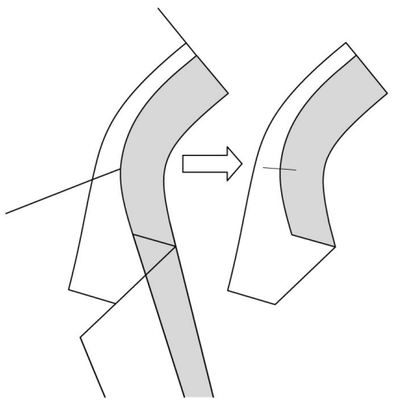
【図９】上襟と襟腰の返り線同士をA、Bの２点で突き合わせる。このとき、A～Bの間で返り線の隙間が1㍉以内になるように２点の間隔を決める。

【図10】Bから直角に展開線を入れ、次の展開点Cを求めるために切り開く。B′～Cの間で返り線の隙間が1㍉以内になるようにする。

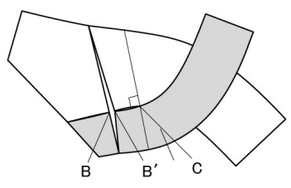
【図11】これを繰り返す。

【図12】展開が終了した状態。

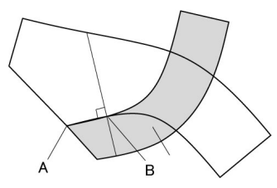
――この作図方法はテーラード・カラーだけではなく、あらゆる襟のデザインに応用が可能。どんな場合であっても返り線が必ずスムーズなカーブを描くので、襟として破綻することがない。ただし、最初のデザイン線の描き方によって出来上がりが大きく左右されるので、望み通りのパターン形状を得るには慣れが必要である。



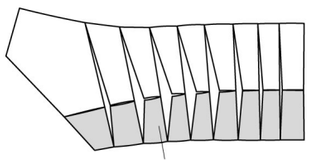
【図７】



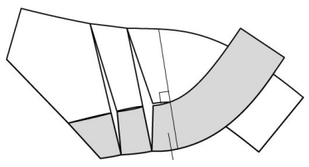
【図10】



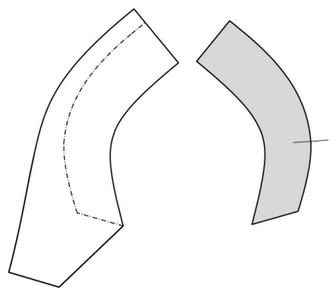
【図９】



【図12】



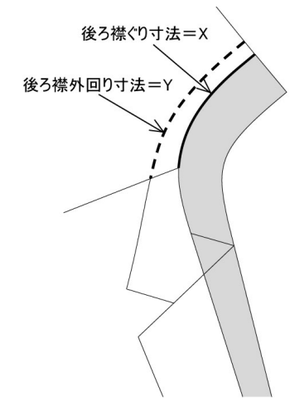
【図11】



【図８】

4．襟の作図②（コンパスを使った平面製図）

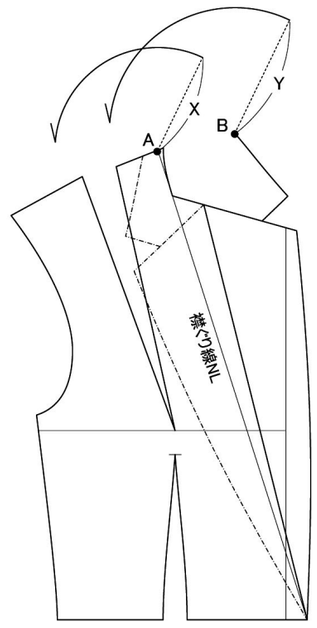
次は平面製図によって一般的な製図とは違い、先に紹介した抜き取り展開図する方法である。



【図13】

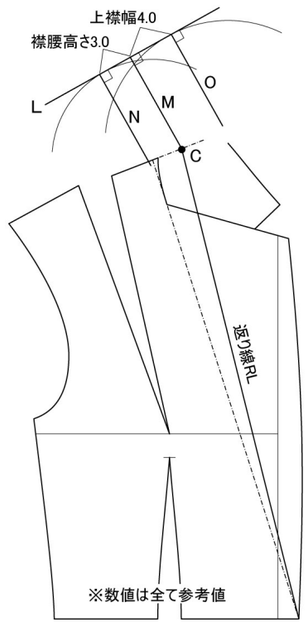
【図13】襟のデザイン線から必要寸法を測る。後ろ襟ぐり寸法をX、後ろ襟外回り寸法をYとする。

【図14】▼襟ぐり線NLを直線で延長し、肩線との交点をAとする。ラペルと襟のデザイン線を返り線RLで反転し、反転した襟の端点をBとして、襟付け線Nと襟外回り線Oを平行に引く。▼A点から、後ろ襟ぐり寸法Xを半径とした弧をコンパスで描く。▼B点から、後ろ襟外回り寸法Yを半径とした弧をコンパスで描く。



【図14】

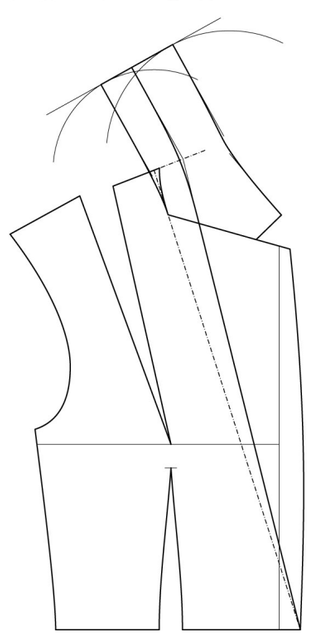
【図15】▼返り線RLと肩線をそれぞれ延長し、交点をCとする。▼２つの弧の接線を引き、Lとする。▼C点から接線Lに向かって直角線Mを引く。▼Mを基準にして、襟付け線Nと襟外回り線Oを平行に引く。



【図15】

【図16】M、N、Oそれぞれの線が自然につながるように引き直す。

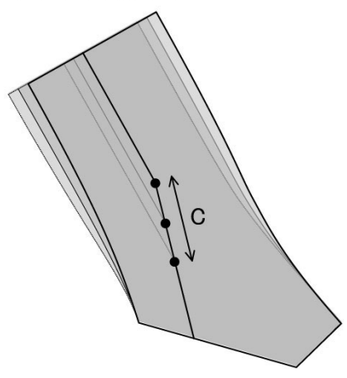
――一般的な囲み製図では襟の倒しを角度や寸法で決める方法が多いが、コンパスを使う方法では襟ぐり寸法と襟外回り寸法の差寸によって倒しが決まる。つまり、もともと「襟の倒し」という概念はない。抜き取り展開と同様、襟のデザインに応じた最適なパターン形状を得るためのメソッドである。



【図16】

【図17】C点の位置によるパターン形状の変化を表した図。C点の位置が高いと後ろ中心が持ち上がった山型になり、逆にC点の位置が低いと平らな形状になる。

――コンパスを使って襟を作図する際、最も重要なのはC点である。【図15】において返り線と肩線を延長した交点をC点とした。このC点の位置を変えると襟のパターン形状が変わるが、パターン形状の変化が外観にどのように影響してくるか、次回説明する。



【図17】

【次回は2018年1月1日号】